軟化者續出し平穩裡に解决か

強硬なのは神奈川組だけ

内田造船の手當問題

内田造船の解雇職工千三百名の内神奈川組職工は其後益々結束を固うして對抗運動を

企策しつゝあるが一方山下町組職工は前日來一層の軟化を見廿二日正午までに既に六百餘名の職工中四百五十餘名の支給金額受領者を出し尚續々受取に來る有樣にて全く平穩裡に

解决を 告ぐるものゝ如く之に對し神奈川組は此儘に打捨て難しとなし中島竹次郎外六名の代表を選び東京友愛會本部に對し應援方を依頼せり是等代表者は二十二日午後歸來して會社側に强硬なる

談判を 申込むものゝ如く所轄神奈川署にては十數名の警官を派して警戒中なり(横濱電話)

重役職工一致して社長に膝詰談判

内田造船所其後の紛議

職工等は各所に演說會を開く

内田造船所職工紛擾事件は、夕刊所報後、午後一時四十分鈴木友愛會長は木村代表外八名と共に本社に於て笠原、竹田、坂本三重役と會見し、職工數百名の

苦衷を 愬へ解雇手當六箇月分の要求を懇請したが、斷られたので更に別室で再協議を爲し『それでは三箇月分の卽時支拂と、殘り三箇月分は内田社長の證文で受領したい』と申出た、今度は重役側も熟議を凝らし『自分等も今月中には當然馘首さるゝ

運命に あるから責任ある回答は出來ぬ、恁うなつては職員職工一致して内田社長に膝詰談判するより外手段はない』と云ふ、代表一同も其意を諒とし、全職工に報告すると共に廿三日午前三重役は鈴木會長木村代表外五名と會談し同午後神戸の内田社長を訪ふ事に

決定し た、それと聞いた七百の職工は歡聲を揚げた、造船所職工は直に代表一行を見送り談判の報告あるまで市内各所で演說會を開く事となつた、當日横濱署は特に取締を嚴重にする由

重役二名と職工代表が揃つて内田社長に懇談

友愛會の援助を受けて

内田造船交渉の結果

横濱内田造船所の爭議で穩和派の造機製缶部職工五百八十餘名は廿二日午後三時迄に給料手當を受取つて退散しまた受取らぬ者は僅に今村組其他六十三名のみであるが一方强硬派の造船部側は今村組と提携して六百餘名となり爾來浦島町の合宿所に陣取り午前十時十五分東神奈川驛頭の鈴木

友愛會長 松本幹事等を迎へて氣勢を高め鈴木氏は「内田信也は財界不況の打擊を蒙つて窮乏だから諸君に滿足を與ふる事は困難かも知れぬが團結して事に當れ」と演說し造船部職長木村辰治、今村組長今村丹次郎外六名を交渉委員に擧げ午後一時鈴木氏は委員を伴うて山下町本社樓上で坂本專務等と會見して交渉は五時半に終つたが其結果職工側では從來の要求額(六ケ月分)を三分一に減じ普通退職手當の外一般的に

二ケ月分 を要求した會社側は「目下全く現金不足の爲め友愛會的要求に應じられぬのは甚だ遺憾である」と職工側に同情し結局社員重役側にも問題あり之を一括して内田社長を訪ふ事に決し職工側から代表者五名を選び坂本笠原の二重役が同件で廿三日朝横濱發神戸に向ふ事になつた

職工側の 代表者八名は同六時浦島町の合宿所へ引揚げ右報告の上更に代表者を擧げて神戸に送る事となり全員六百餘名は賑しく停車場に送る筈

側に於ては頗る强硬で容易く之に讓らず、職工側は解雇手當の六ケ月分要求を二ケ月に減額する案を提出したが是が問題にならず結局社長に直談判する事となり重役側から坂本、武田の兩氏職工側からは五名の委員を選んで二十三日下神する事に決し子安の社宅に戻つて其旨を報告し同七時散會した、坂本重役は午後七時

神戸の 社長内田信也氏に打電して、諾否の返電を求めた鈴木文治氏は語る

昨日の坂本重役との會見は金一封問題ならば(五千圓位)別として夫以上は重役の考ではどうする事も出來ないとの事であつたから其儘打切つて職工側幹部に相談すると職工側の主張は造船部職工は孰れも三菱、川崎等の大工場に於ける二三十年勤續者が甘言に依て勸誘されて來たもので今日閉鎖したとて僅の涙金で追放するは餘り酷であると承知しない、依て更に再び會見となつたのである、此結果解雇手當を二ケ月分に切下げる事に迄讓步したが五千圓以上は到底相談が出來ないので社長と直談判となつたのである、然し社長も今月一杯で解雇され重役も數日で名義がなくなるのだから結局は社員、重役、職工の三つが一括して社長に相談する事になつた次第で要するに内田雇傭人全體の問題となつたのである

職工代表神戸へ

内田社長を訪ふて直談判

解雇手當六月は二月に讓步

横濱電話=内田造船所造船部職工七百名は前日同樣二十二日も午前八時から神奈川浦島丘の第三社宅に集合して

善後策 に就き協議中で、あつたが午前十一時鈴木友愛會長がやつて來て乘込み前夜坂本重役との會見顚末を述べた上更に重役會見委員として職長今村丹次郎、木村辰次、馬場初次、日阪歌三郎、組長寺地千太郎、尾忠太郎、西岡良三郎、瀧仙吉の八名を擧げ鈴木氏は附添の格で午後一時半から山下町本社樓上で重役坂本、笠原、武田の

諸氏と 會見したが重役

社長訪問團は今日出發

内田信也氏と最後の膝詰談判をなすべく神戸に赴く内田造船所造船部職工側代表五名は社員代表たる重役坂本、武田兩氏と共に二十三日午後三時横濱驛發列車にて出發する筈であるが當日七百餘名の職工は行列を作り應援旗を打振りつゝ同驛迄見送り行を盛にする筈

鐵工部五百八十三名は

問題無事解決

五十名は拒絶

内田造船職工中の穩健派の鐵工部の職工は二十二日三百十九名出頭して會社提案通り解雇金を受取つた、之で鐵工部職工六百四十三名中五百八十三名は解雇金を受取つた譯である、然し右の内職工長今川丹次郎の率ゐる五十名は之に反對して造船部職工と運動を共にする事となり該解雇金を拒絶して二十二日から右運動に參加した

社員も不平で四項の要求を提出

今月一杯で解雇される同社々員二百十二名は會社側の提案せる解雇金に應ぜず協議の上二十二日各課長を通じて左記四ケ條の要求を重役側に提出した

一、一年勤續者に解雇金六ケ月分を支給する事

二、夫れ以上半期を增す事に一ケ月分を給する事

三、賞與金を增額する事

四、醫視其他の雇人も社員待遇と爲す事

協調會から町田氏出張

勞資協調會囑託の町田辰次郎氏は本問題の解決の爲め二十二日來濱し兩者と會見目下調査の步を進めて居る

職工二千と社員二百

更に横濱船渠の解雇沙汰

横濱電話=内田造船所は千三百名の職工を解雇したが更に横濱船渠會社に於ては二十八日の株主總會を經た上殘餘の職工二千名と社員二百餘名を淘汰する方針の由で横濱に於ては茲に職工三千人の失業者が一時に出來る譯であるが職工の失業は他の勞働方面に於て相當に其就職口がある模樣であるが社員方面に於ては殆ど就職口皆無の有樣であるから之に對しては非常に前途を案じられて居る

友愛會の應援を求めて突如運動を起す

馘首された内田造船の職工

寄宿舍を占領して對抗

化粧廻しの半分を支給せよと今夜横濱で演說會

工場閉鎖の爲め失業の悲境に陷つた横濱内田造船所の職工委員は本日友愛會本部に鈴木文治氏を訪ひ『要求する所の解職手當を貰ふ爲めには此際是非鈴木氏に立つて貰ひ度い』とあつて六百名が卽刻入會を申込み

入會金 も卽座に拂込んで茲に友愛會所屬横濱造船工なるものが生れ出た、從つて此後は組合運動に依つて初志の貫徹に努める事となり一切を擧げ鈴木氏に依頼し氏の指導に從ふ筈で成り行きが如何ならうとも苦情は云はぬ旨を誓つた、一方會社側では工場閉鎖と共に横濱市浦島町所在職工寄宿舍の食事を廿日限り止める旨を

申渡し たので職工等は『一人十二圓宛の基金さへ積んで居るのに怪しからん』と憤慨し遂に同寄宿舍を占領して此處を本部に充つるに至つた、尚鈴木氏は本日午後床次内相訪問後東京聯合會の松岡、野村、池田の諸幹部と共に横濱に乘込み横濱造船工の發會式を兼ねて今夜演說會を開催する事となつた、職工代表の一人は語る『自分等は世間を騷かせたり

暴擧に 出でるやうな事は斷じて行らない、會社を折衝した事さへも世間に發表されないやうに努めて居た位である、從つて會社に對しても無理な要求は爲て居ない、水戶の高校に百萬圓を、横綱大錦の化粧廻しに四千圓を寄附した程の内田社長に、せめて大錦の化粧廻しの半分も支給して貰ひ度いといふ迄の事である』

内田社長に打電

職工は直接面會して要求提出の意氣組み

子安の浦島岡に集合す

内田造船所の解雇職工は昨夜善後策を協議の結果別項の通り友愛會の應援を求めることゝなり今朝七時各組長坏の中より馬場勝次、上崎唯吉、久保友次郎外二名の

委員を 擧げて友愛會本部に急行せしめ造船部の六百名は九時横濱公園に會合の豫定を警察部の警告により變更し子安町浦島岡に集合して友愛會特派委員の齎すべき情報を待ちつゝあり、また社員二百十餘名に對する解職手當は月給六箇月分と

略決定 し本日午後一時發表の筈、尚職工側は重役との會見を好まず、直接に社長内田信也氏に會見の希望なるより會社側にては神戸に打電して内田社長の來濱を求めたがまだ何等の返電に接せずと(横濱電話)

鈴木友愛會長內務次官と會見

大阪の勞働爭議解決難

大阪に於ける藤永田造船所の勞働爭議も愈行詰まり最早手を下す術もないので[illegible]した鈴木友愛會長は局面展開徹底的解決の爲め二十一日午後二時半[illegible]の野村、織田、武田の三勞働者を從へ内務省警保局に出頭大臣に面會を求めたが不在の故を以て代つて大臣官房次官に應接し鈴木氏以下三氏は交々[illegible]日採れる失業者に對する[illegible]手緩い且治安警察法の適用が過酷に失する旨を述べ次官[illegible]へたるが午後三時に至るも[illegible]を認めざる模樣である